

## コロナ禍におけるスポーツ鬼ごっこの社会的価値

(ふじみ野市スポーツ鬼ごっこ連盟) 金子 俊之

キーワード：社会的価値評価・コロナ禍・スポーツ鬼ごっこ

著者略歴：埼玉県スポーツ鬼ごっこ連盟代表理事、ふじみ野市スポーツ鬼ごっこ連盟理事として地域のスポーツ鬼ごっこ普及活動に主導的に携わる。IOA 公認 2 級ライセンス指導員・審判員/技術士（総合技術監理部門・建設部門）

### 1. 研究背景

- 従来の遊びの鬼ごっこに戦術や戦略を要するルールを加えた「スポーツ鬼ごっこ」は、幅広い世代が運動能力に関係なく誰でも気軽に参加できる楽しさと競技性の高さが両立しており、その魅力から全国各地で広がりを見せている。
- スポーツ鬼ごっこ活動を地域で持続させるためには、参加者だけが楽しむだけではなく、多様な社会的価値を創出する団体として、地域社会に受け入れられることが求められてくる。そのためには、スポーツ鬼ごっこ活動の社会的価値を評価することが必要である。
- 既往研究では、金子が社会的企業や団体が行う非営利的活動の投資可能性を測る SROI (Social Return on Investment：社会的投資収益率) 手法の活用によりスポーツ鬼ごっこ活動の社会的価値評価の算出を実施している。[1][2][3]
- 一方で、2020 年度新型コロナウイルス感染拡大の影響により、人々のスポーツ活動の機会が奪われている。また、感染封じ込めのための人と人との接触を減らす取り組みを通じて、多くの市民の身体活動量・運動量が大きく減少することが危惧されている。[4]
- そこで、本研究では、ふじみ野市スポーツ鬼ごっこ連盟の活動を対象として、コロナ禍におけるスポーツ鬼ごっこ活動のニーズがどのように変化しているのかを把握するとともに、コロナ禍以前と比較した社会的価値の変化について考察する。

### 2. 研究方法

- 本研究では、ふじみ野市スポーツ鬼ごっこ連盟の会員を対象としたアンケート調

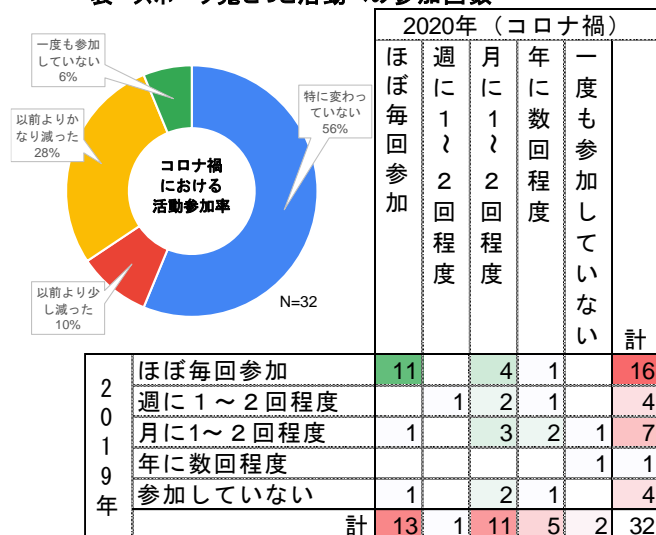
査により考察を行った。

- 最初に、スポーツ鬼ごっこ活動への参加回数とコロナ禍における活動参加率を確認した上で、コロナ禍における外出・運動頻度、知人・家族と過ごす時間などの外面的変化について把握した。
- 次に、スポーツ鬼ごっこ活動で感染対策をしなかった場合の不安な場面について確認し、感染対策の徹底によって参加者の不安が低減できる項目を明らかにした。
- さらに、スポーツ鬼ごっこ活動によって期待できる効果を把握し、コロナ禍以前を含めた経年的変化を分析した。
- 最後に、コロナ禍における活動ニーズを踏まえ、スポーツ鬼ごっこの社会的価値について考察した。

### 3. 分析・考察

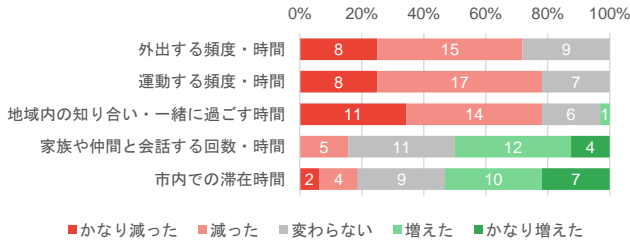
- コロナ禍以前と比べてスポーツ鬼ごっこの活動頻度が全体的に減っており、コロナ禍における活動への参加率は「特に変わっていない」が約 6 割、「以前より減った」「一度も参加していない」が約 4 割となっている。

表 スポーツ鬼ごっこ活動への参加回数



- ・コロナ禍における外面的変化では「地域内の知り合い・一緒に過ごす時間」「運動する頻度・時間」「外出する頻度・時間」が減少、「市内での滞在時間」「家族や仲間と会話する回数・時間」が増加傾向となっている。

(コロナ禍になってからの) 頻度や時間など外面的変化 N=32



- ・スポーツ鬼ごっこ活動で感染対策をしなかった場合の不安は、「都道府県を跨いだ移動」「練習中の休憩時間」「プレイ中の声出し・激励」「プレイ中の作戦会議」「チームメンバー以外の参加」「保護者などの応援」の順に高い。
- ・感染対策の徹底によりリスク低減が可能と思う割合を乗じた残存不安度の算出結果から、「プレイ中の声出し・激励」「プレイ中の作戦会議」「保護者などの応援」は不安の低減効果が高いものの、「都道府県を跨いだ移動」「チームメンバー以外の参加」は低減効果が低い。

表 活動で感染対策をしなかった場合の不安と感染対策の徹底による不安の低減

不安度	不安度			不安度 × (1-リスク低減が可能な割合)	感染対策の徹底によるリスク低減が可能な割合	感染対策徹底後の残存不安度
	かなり不安	やや不安	あまり不安ではない			
都道府県を跨いだ移動	6	14	9	3	47.7%	28.3%
練習中の休憩時間	7	10	11	4	46.1%	15.8%
プレイ中の声出し・激励	3	16	11	2	43.0%	13.4%
プレイ中の作戦会議	3	14	13	2	41.4%	14.2%
チームメンバー以外の参加	3	13	13	3	39.8%	22.4%
保護者などの応援	1	16	13	2	38.3%	8.4%
プレイ中のタッチ・接触	2	11	13	6	33.6%	14.7%
準備・片付け時	1	14	9	8	32.0%	8.0%
プレイ中のハント(宝など触る)	1	9	18	4	31.3%	12.7%
集合	0	13	13	6	30.5%	8.6%
備品の共有	0	9	17	6	27.3%	8.5%
プレイ中のスタートエリア	0	8	17	7	25.8%	9.7%
消毒作業	0	7	16	9	23.4%	5.1%
準備運動	0	5	19	8	22.7%	7.8%
得点係	0	3	21	8	21.1%	6.6%
主審・副審	0	4	16	12	18.8%	6.4%
市内会場までの移動	0	5	7	20	13.3%	5.4%

\*不安度はかなり不安を100%、不安を75%、あまり不安ではないを25%、不安ではない0%としたときの割合

資料: ふじみ野市スポーツ鬼ごっこ連盟アンケート調査(N=32)

- ・スポーツ鬼ごっこ活動によって期待できる効果は、「健康増進」「地域コミュニティの形成」「青少年の健全育成」「スポーツ文化の醸成」「居場所づくり」の順に高く、コロナ禍においては「青少年の健全育成」「地域コミュニティの形成」がより高まる傾向が確認できた。

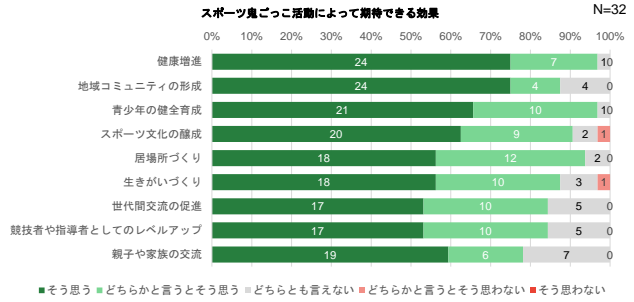


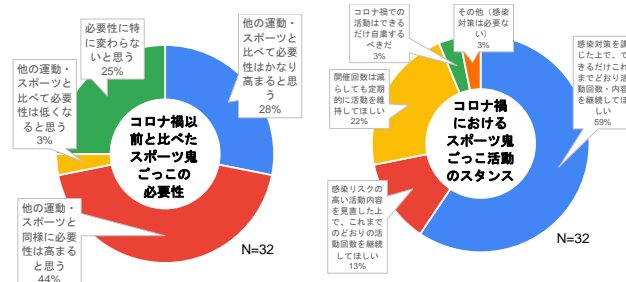
表 スポーツ鬼ごっこ活動によって期待できる効果(寄与率の経年変化)

期待できる効果	2017年	2018年	2019年	2020年(コロナ禍)	2019年からの増減
健康増進	94.6%	95.6%	91.2%	93.0%	+8%
スポーツ文化の醸成	92.6%	92.6%	87.5%	87.5%	+0.0%
親子や家族の交流	94.6%	92.6%	77.9%	84.4%	+6.5%
居場所づくり	82.1%	94.1%	88.2%	87.5%	-0.7%
地域コミュニティの形成	82.1%	88.2%	84.6%	90.6%	+6.0%
世代間交流の促進	83.9%	92.6%	86.8%	84.4%	-2.4%
青少年の健全育成	88.2%	88.2%	81.6%	90.6%	+9.0%
生きがいづくり	85.7%	83.8%	83.8%	85.2%	+1.4%
競技者や指導者としてのレベルアップ	85.7%	83.8%	75.7%	84.4%	+8.7%

\*寄与率は、そう思うを100%、どちらとも言えないを50%、そう思わないを0%としたときの割合

資料: ふじみ野市スポーツ鬼ごっこ連盟アンケート調査(2017年: N=14, 2018年: N=17, 2019年: N=34, 2020年: N=32)

- ・コロナ禍におけるスポーツ鬼ごっこの必要性では、約7割が「必要性が高まる」と回答しており、活動スタンスとしても「できるだけこれまでどおり活動回数・内容を継続してほしい」というニーズが約7割を占めている。



#### 4. まとめと課題

- ・本研究では、アンケート調査による分析から、コロナ禍におけるスポーツ鬼ごっこ活動のニーズの変化と社会的価値について明らかにした。
- ・この結果、コロナ禍におけるスポーツ鬼ごっこの社会的価値は依然として高い状態にあり、感染対策の徹底により、参加者の不安を低減しながら活動を継続することが望ましいといえる。
- ・一方で、感染症対策を講じた不安の解消と効果的なリスク低減は必ずしも一致していないことに留意する必要がある。

#### 【謝辞】

・本研究にあたり、各種調査にご協力頂いたふじみ野市スポーツ鬼ごっこ連盟のメンバーに感謝の意を表します。

#### 【引用・参考文献】

- [1]金子俊之, SROI を活用したスポーツ鬼ごっこ活動の社会的インパクト評価の試行, 第1回鬼ごっこ総合研究所研究発表大会, 2018. 3
- [2]金子俊之, SROI 手法を活用したスポーツ鬼ごっこ活動の社会的価値評価, 第2回鬼ごっこ総合研究所研究発表大会, 2019. 3
- [3]金子俊之, スポーツ鬼ごっこ活動の社会的価値に関する一考察, 第3回鬼ごっこ総合研究所研究発表大会, 2020. 3
- [4]笹川スポーツ財団, 新型コロナウイルスによる運動・スポーツへの影響に関する全国調査, 2020. 10